

核なき世界へ新たなスタート



日本共産党

廃絶の先頭に立つ政府を

「3つの力」を合わせる

核兵器禁止条約の採択は新たなスタート。めざすゴールは「核なき世界」—核兵器の完全廃絶です。そのためには「3つの力」=①条約の力②条約をつくった国ぐにと市民社会の力③核保有国と同盟国での核廃絶の世論の力=を合わせる大切です。

日本政府に失望と批判

日本政府は唯一の被爆国の政府なのに交渉に参加せず、「(条約に)署名することはない」(国連大使)と言って世界の失望と批判を招いています。日本共産党は、▽条約への参加を圧倒的

北朝鮮の核 禁止条約でこそ

国際社会が核兵器を違法化する方向に進むことは、北朝鮮を孤立させ、核開発を放棄させる大きな力になります。「北朝鮮が核開発しているときに禁止条約に賛成できない」でなく、「開発している時だからこそ条約に参加する」ことが大切です。

な声にする▽野党と市民の共闘の課題に「条約への参加」を位置づけ、核廃絶の先頭に立つ政府をつくるために奮闘します。

日本共産党

ヒバクシャの声で 世界が動いた

人類史上初めて核兵器が違法と宣言されました。被爆者を先頭とする戦後70年余の運動の成果です。

122カ国が賛成

核兵器禁止条約を採択



条約採択の歓喜の中で握手をかわす被爆者のサーロー節子さん(中央)と日本被団協の藤森俊希さん(その左) = 7月7日、ニューヨークの国連本部(「しんぶん赤旗」提供)

日本共産党

核兵器禁止条約は7月7日、国連の会議で122カ国(国連加盟国の約3分の2)が賛成して採択されました。条約は、核兵器の「開発、実験、生産、製造、取得、所有、貯蔵、移転」の禁止、「使用、使用の威嚇」の禁止を明記しました。「使用の威嚇」禁止は、核の脅しで安全保障を図るという「核抑止力論」を否定したものと重要です。米国

の「核の傘」の下に入ることも禁止されました。

条約は「抜け穴」をすべてなくし、文字通り核兵器を全面的に禁止。核兵器に「悪の烙印」を押しました。

日本政府は会議をボイコット。日本の政界から参加したのは日本共産党だけ。志位和夫委員長を団長とする代表团が会議成功へ奮闘しました。

核に「悪の烙印」

近畿民報

2017年8月 No.1(第291号)
発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビル102号
Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を発表しました。